

暴力的な黒人人権運動 BLM に、あえて期待を寄せる としたら

Greatchain
2020/07/18

人種差別に対する憎しみから起こっている現在の暴動の中で、中心になっているのは Black Lives Matter (BLM、黒人に生命が重要だ) という標語によるものだが、これを「黒人人権運動」と訳してもいいだろう。この騒動の中で、All Lives Matter (すべての命が重要で、尊い) と、まともなことを言って返した若い母親が、殺されるという事件が起こった。これはひょっとしたら、はずみで起こっただけなのかもしれないが、若い子どもが残されたこともあって (主流メディアを除いて) 大きく騒がれた。

もし犯罪者が、この言葉に本当に腹を立てて、殺したのだとすれば、それは残虐というより、狂人の行動であろう。これは、BLM 運動を代表する行動とは考えられないが、現在の暴動の怒り狂った憎しみを、象徴する出来事ではあるだろう。

いったいこの狂乱の背後に、何があるのだろうか？ 単なる人種差別ではなさそうである。この運動のリーダーや代議士が、トランプが敵だと言っていることを考えると、まずその判断がおかしい。

その怒りの根本には、「サイコパス+ウソつき」という、もっと根深い構造をもつものがあると私は考える。これは政治家一般あるいは政治的人間、また国際企業や主流メディアのような、組織的人間のもつ、「良心の欠如」という根本的な人間の欠陥であろう。ウソをつく、人を騙す、また残虐なことを行っても平然として、全く良心の呵責を感じない、ということである。

これは、我々「まともな」者たちが考えているより、遥かに確実に存在するものであることが、時間とともにわかってきた。それは「マルクス的人間」だと言ってもよい。彼は奴隷制度を廃止するどころか、それは、白人社会と文明を進化させ、繁栄させる、重要な手段だと考えた。しかし彼は巧妙にそれを隠した。

しかし、それよりもっと根本的な問題が、人間と人間社会にはひそんでいる。それは「唯物論」という我々のもつ、ほとんど無意識のパラダイムである。いったい目に見えるものが存在するすべてなのか、と問うてみなければならない。もし目に見えるものが存在するすべてなら、白と黒という色の違いは絶対的なもので、従って白人と黒人の区別は、テコでも動かない絶対的なものになる。本当にそうか？

また、唯物論に従って、我々の皮膚の隔壁は絶対的なものなら、私とあなたは絶対的な他人で、あなたの考えていること、感じていることは、私には絶対にわからないことであり、あなたの苦痛も喜びも、わたしには絶対にわからないことだと考えねばならない。共感とか道徳とかいうものは迷い事で、完全に切り捨てるべきものとなる。それを科学的真理として、この世の「サイコパス」どもは、自分の世界を築こうとしている。

しかし、我々の体験によって、その唯物論は事実の一部でしかないことを知っている。私はあなたの苦痛や喜びがわかり、考えていることさえ、ある程度はわかる。我々は（礼儀上、あるいは怖いので、〈ウソつきめ〉とは言わないが）政治家のウソや、プロパガンダは、ほとんどわかり、滑稽に聞こえるようになった。我々は、アメリカという国が、これほど醜い国だとは考えていなかった。そして我々は、人間相互の共感や道徳を信じて行動している。

現在のアメリカやヨーロッパの暴動や、それを醸成する社会は、唯物論原理しかないかのように動いている。そしてあろうことか、わが国の主流メディアも、それが真理であるかのように行動している。これは滅びる。滅びるのは目に見えている。

白人と黒人が、色に従って価値が決まるように考える、馬鹿げた迷妄は消えるだろう。人種差別などというものは、究極的に消えるしかないものである。人間の価値は道徳的な高さによって決まる。やがてアメリカはそれを知り、羞恥という感情が広がるだろう。色の黒い人の人格の高さに圧倒されるような経験を、我々はいくらでもしている。

現在わが国でも、大きな風潮として「スピリチュアル」と言われる反唯物論的思想が広がっており、これは団結すれば、かなり社会を動かすであろう。というより、唯物論などという馬鹿げた考え方する者たちは、ほとんどいなくなるであろう。いるとすれば、それは、politically correct などと呼ばれて、あたかもそれが正しい思想であるかのように振舞い、「悪」の宣伝に強力する者たちが、大勢いるからである。

そこで私は、BLM のような、反欧米・反墮落白人運動を起こしている人々に申し上げたい。もしあなた方が、本気でこの悪を倒そうとするなら——そんな気は全くない、ただ暴れているだけだというなら別だ——あなた方は、この政治的悪や墮落に、憎しみの悪を上

乗せするようなことをしないで、この悪が何であるかを“見極める”運動をしていただきたい。そして団結していただきたい。そうすれば、この悪人墮落集団は、簡単に崩れ去るはずである。彼らは、ごく薄っぺらな世界制覇・帝国主義思想を唱え、また乗せられているにすぎない。あの民主党の何人かの、馬鹿々々しく軽薄な言動を見るがよい。こんな者たちが本気で真剣に考えているはずがない。

ここ数か月間に、特に9月から来年1月くらいの間、かなり深刻な社会的変動が起こるといふ予言や予測がある。特に11月の3日（米大統領選挙日）には、武装して万全の準備をせよという人がある。現在のBLMやCOVID-19騒動などは、序の口だといっている。かなりの人的・物的な犠牲が生ずると考えるべきであろう。

これは偶然起こることではなく、何者かが我々に「気づき」をもたらすためだと考えるべきである。ひとたびそう考えるなら、この現実のすべてが「気づき」の対象でなければならぬ。我々はそれくらい徹底的に目覚めなければ、新しい世界は生まれまいだろう。しかし、頭からそういったことを馬鹿にする唯物論信仰者には、それは絶望的である。

——以上